



対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
4 紀宝町	対談項目1 防災対策について		<p>平成27年度の風屋ダム・二津野ダム、坂本ダムの水利権更新手続きにあたり、治水機能を持ち合わせた多機能ダムへの機能変換を図るダム運用を行うこと、濁水への抜本的な軽減措置を講ずることなどを強く関係機関に働きかけていただきたい。</p>	<p>県としては「ダム操作に関する技術検討会」や「熊野川の総合的な治水対策協議会」において、さらなる改善に向けて検証状況を確認していきたいと考えています。濁水対策については「熊野川濁水対策技術検討会」の検討結果を参考に、「熊野川の総合的な治水対策協議会」において濁水の改善に向けた意見を述べてまいります。</p>
5	孤立地区の解消		<p>熊野川中流の浅里地区から対岸の新宮市への橋梁の新設を要望します。 県道紀宝川瀬線についても、嵩上げ等の改修を早急に実施していただきますよう要望します。</p>	<p>浅里地区等から、1級河川熊野川を渡河し、対岸の和歌山県側の国道168号への架橋は、地形的な制約、技術的な課題により、事業費が膨大になり、長大橋の整備は困難と考えています。 県道紀宝川瀬線の高岡及び大里地内の嵩上げについては、全体計画延長1.8kmとし、特に道路高が5m程度と低くなっている普通河川和田地川付近から1級河川野添川付近までの約500mを最優先整備区間とし、道路の拡幅改良と合わせ、最大約2mの嵩上げの整備を進めていくこととなり、平成25年度は測量設計を行い、現在用地測量を進めているところです。</p>

対談市町名	対談項目	各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
6 紀宝町	対談項目2 新宮紀宝道路の早期完成～広域交通網の整備促進～	<p>熊野川河口大橋を含む「新宮紀宝道路」の早期完成と、未事業化区間である近畿自動車道紀勢線（新宮～熊野大泊間）を早期に新規事業化するとともに、紀勢線が全線開通するよう広域交通網の整備促進を要望します。</p> <p>整備促進のため、「紀勢線推進課（仮称）」を配置していただくなど、県の推進体制整備についての配慮を要望します。</p>	<p>平成25年度は測量及び地質調査が進められ、平成26年度は7月に地元説明会を開催し、意見を伺いながら設計を進めると聞いていますので、県としても協力していきます。</p> <p>未事業化区間についても国に対し、要望していきます。</p> <p>また、県の推進体制については、県土整備部道路企画課に高規格幹線道路の整備促進のため、高速道推進班として4名の職員を配置し、事業進捗に応じた調整に取り組んでいきます。</p>
7 紀宝町	対談項目3 井田海岸浸食・高潮対策について	<p>地域住民が安全・安心な生活を送る海岸が整備されるには、まだ多くの時間と多額の事業費が必要であることから、国の直轄事業により早期解決できるよう要望します。</p> <p>また、国の熊野川激特事業による河道掘削土砂については、井田海岸への受け入れを図っていただきますよう要望します。</p>	<p>七里御浜海岸浸食対策の直轄事業化を国に対する提言活動などにより要望をおこなってきたところであり、今後も引き続き強く要望していきます。</p> <p>熊野川激特事業による河道掘削土砂については、平成25年11月より鵜殿港海岸へ受け入れを開始しています。井田地区海岸においても国と関係機関と調整を図り、順次、受け入れを行います。</p>

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
8 紀宝町	対談項目4 鵜殿港施設の津波・高潮対策について		<p>中曾川河口における鵜殿港内のマイターゲートについては頻繁に故障が発生している状況ですので、新たにスルースゲート等を設置していただく必要があると考えておりますので、対策を要望いたします。</p>	<p>ボルトの脱落による不具合が発生していたマイターゲートについて、アンカーボルトの径を大きくするなどの小規模修繕工事を平成26年3月から実施し、6月上旬に完了しました。 当面、修繕後の状況を点検し、管理の徹底を図っていきたいと考えています。</p>
9 紀宝町	対談項目5 熊野川流域景観計画について		<p>計画策定にあたっては、和歌山県と足並みをそろえた計画とすること、濁水についても景観計画への記載が必要と考えています。これらの意見を十分に反映したうえで景観計画を策定していただきますよう要望します。</p>	<p>関係する2県2市1町で構成する協議会を設置し、両県の景観計画の方向性が相違しないよう協議を行ってきたところであり、引き続き協議会を活用した連携に取り組みます。 熊野川流域景観計画の素案においては、濁水の長期化の問題についても記載しました。濁水については「熊野川の総合的な治水対策協議会」において引き続き検討してまいります。</p>